

山田 葵

3年 / 168cm / PG



エースの
思い



まずはバスケットを楽しむこと そして冬はベスト4!

「関東新人で優勝することができインターハイに向けての気持ちが高まっていたので、中止の知らせについては『悔しさ』が一番強かったです。自粛期間中は『こんなときだからこそコミュニケーションを取ることが大切』と思いチームメイトと毎日連絡を取り合い、一人ずつ自分のおすすめトレーニング法を共有していました。個人的には自宅でハンドリングスキルの向上に努めたり、心拍数を上げるために走り込みをしたり、ドライブの1歩目を速くするために重りを付けて走って瞬発力を鍛えるトレーニングをしていました。」

今年は性格的に明るくバスケットを楽しむ選手が多いので、試合中に流れが悪くなったときでも声を出して盛り上げていけるチームです。またバスケットの面では、昨年よりリバウンドを取った後のスピードが速くなっています。基本的に私がリバウンダーからボールを受けるのですが、そこからフィニッシュまでのスピード、トランジションの切り替えが速く、そういった機動力が今年のチームの長所であり持ち味だと感じています。それに加えてディフェンスで相手とどう駆け引きをしていくかという練習をしているので、そういった部分はぜひ見てほしいです。

チームとしての課題は、シュート力の向上です。3Pシュートを中心としたアウトサイドのシュート確率はもちろんですが、インサイドでのファウルを受けながらのシュートなども含めて細かな部分まで精度を上げていきたいです。

まずはバスケットを楽しむことが第一なので、それは絶対に忘れないようにして、最後に全員が笑顔で終われるようなチームを目指していきます。それとインターカップでは必ずベスト4に入りたいです。その思いは（関東新人のときから）変わりません」

東京成徳大

東京



抜群の機動力を武器に 狙うは全国ベスト4

「これまで支えてくれた方々に今度は自分たちが元気を与えられるように」
遠香周平コーチは緊急事態宣言が解けた後の最初のチーム練習で、そう選手たちに語りかけた。

そんな東京成徳大の新チームは、良いスタートを切っていた。昨年のウインターカップではメインコートを目前に惜敗したもの、初陣となった関東新人ではスピーディーなバスケットを展開し優勝。上々の滑り出しであったがゆえに、数か月の足踏みを強いられインターハイも中止になったことに、普段あまり感情を表に出さない選手たちも落胆していた。それでもキャプテンの山田葵が「今年は明るい性格の選手が多い」ということもあり、気持ちを切り替えて自粛期間中もモチベーションを高く保っていた。遠香コーチによると、今年のチームは「サイズはないもののディフェンスを攻撃的にガツガツやる選手が多い。それにトランジションも武器になっている。女子でも留學生が増えている中で、逆にそこを突くようなゲームをしたい」という。また昨年のウインターカップで主力としてコートに立った選手が多いのもアドバンテージで、その一人である山田は「ウインターカップはベスト4に入りたい」と力強く語る。最初で最後となる冬、縦横無尽にコートを駆け回る成徳の戦いに期待したい。

カギを握るプレーヤー

内外に活躍する成徳の リーディングスコアラー



古谷 早紀

2年 / 178cm / PF

小柄な選手が多い成徳のインサイドを支えるのが古谷だ。2年生ながら優れた得点感覚を持ち、1年生として出場した今年2月の関東新人では4試合で平均25.3得点。トップスコアラーとして優勝に大きく貢献した。「シュートレンジの広さとトランジションからの速攻が持ち味です」と本人が語るように、インサイドの選手ながらオフェンスのバリエーションは豊富だ。とはいってもまだ線が細く、「自分よりも体格に勝る相手に負けない体作り」を自身の課題に挙げている。また、3Pシュートを含むアウトサイドからのシュート確率が安定すれば、より驚異的な存在になるだろう。「(ウインターカップが)3年生と一緒に戦える最後の大会なので、勝利に貢献できるように思い切りプレーしたい」と気合十分だ。

リバウンドでリズムを生み出す 緑の下の力持ち



青野 美玖

3年 / 174cm / PF

山田、須田理恵と共に昨年のウインターカップをスターターとして戦った青野だが、今年はケガの影響でチームへの合流が関東新人の直前になるなど波乱の幕開けとなった。PFとしては決して大柄ではないものの、「ボールへの強い執着心」(青野)による力強いリバウンドで、今年のチームの持ち味であるトランジションゲームを生み出す起点となっている。派手さはないが自身の役割を確実にこなし、気付けはダブルダブルに近いスタッツを記録する。その様はまさに成徳の緑の下の力持ちだ。チーム全体の共通認識でもあるジャンプシュートの精度アップは青野自身にとっても課題であり、来る冬に向けて、さらなるレベルアップを目指す。